

来・ぶらり

世界最初の郵便切手

[ペニー・ブラック]

1840.5.1発行

イギリス：ヴィクトリア女王時代

西本願寺第23代宗主勝如上人（大谷光照師）

収集切手コレクション（大宮図書館蔵）より

本切手は、前門主大谷光照師が生前中に収集された切手コレクション（2002年2月龍谷大学に寄贈）中の代表の一つで、イギリスから1840年5月1日発行された世界最初の切手「ペニー・ブラック」です。

「近代郵便制度の父」と呼ばれたローランド・ヒル（1795-1879）は、郵便切手導入にあたり、当時のイギリス国王ヴィクトリア女王をモデルとして図案化、額面と印刷インクの色から「ペニー・ブラック」と呼ばれています。



図書館の楽しみ方

学術情報センター長 矢田 了章（文学部教授）

図書館から学術情報センターに名称が変更され、学術情報センターとして次第に充実されつつあります。学術情報センターには、書籍・雑誌の文献資料、視聴覚資料、インターネット・データベースなどのメディアを揃え、学内外図書館との相互利用、さらにレファレンスなどのサービスを行っています。是非とも学術情報センターの機能を十二分に活用して楽しんでいただきたいと思います。

楽しむと言っても、様々な楽しみ方があります。ビデオやDVDを見ることでも楽しめますが、学術情報センター・図書館本来の楽しみ方もあるのではないのでしょうか。学術情報センター・図書館は主として大学構成員の学問・研究推進を支援するところです。その方向で学術情報センター・図書館をより深く活用して、自らの学問研究が推進されることの中で、楽しむことができるのではないのでしょうか。

私の専門は真宗学で、『歎異抄』に関する研究をここ十数年来続けていますが、数年前大宮図書館のカードボックスで『歎異抄』の文献を検索していたとき、今まで全く注目されていない『歎異抄』の古写本のあることに気づきました。早速それを帯出し検討すると、後に判明したことでしたが室町時代末の写本でした。『歎異抄』の古写本の中では最古のものではないものの、内容は結構学問的興味を引くものでした。大宮図書館が仏教書収蔵の長い伝統を持つことからこのよう

なことは起こったのかも知れませんが、図書館利用の仕方次第では幾らでも新しい発見が出来る、図書館を楽しむことが出来るのではないのでしょうか。

また、つい数ヶ月ばかり前のことですが、大宮図書館の情報から『歎異抄』の文献閲覧のため某大学図書館を訪ねました。その折り書庫の中に無造作におかれたメモ書きから、私が長年探し求めていた江戸時代の『歎異抄』の講義録が、しかも二本収蔵されていることが判明しました。『歎異抄』の江戸時代の研究史には欠かすことの出来ない書でありながら、知られていたのは書名のみで、既に消失してしまったと考えられていました。研究室や学術情報センターにいて、情報機器を利用して文献収集することばかりでなく、そこで得た情報を元にしてより深く情報収集してゆくと予期しない成果が得られるのではないのでしょうか。“足で稼げ”とはどこかで聞いた言葉ですが、図書館の利用も同じことのようにです。

こうした図書館との関わりの中で、私に学問研究の楽しみを感じさせてくれます。より深く図書館にかわり、問題探求を進めてゆくと、思いもしなかった未知なるものとの出会いがあるように思います。そこに何とも言えない楽しみが生まれるのではないのでしょうか。そのために学術情報センター・図書館はあるのではないのでしょうか。



01 図書館の楽しみ方

矢田 了章（学術情報センター長）

02 資料の探し方ーロシア史ー

松原 広志（国際文化学部教授）

04 図書館の使い方（人物編）

06 切手に見る宗教と世界 「西本願寺第二十三代宗主勝如上人（大谷光照師）収集」切手を整理して

長嶋 和重（元龍谷大学文学部大学院東洋史学専攻）

西谷 功（元龍谷大学文学部大学院仏教学専攻）

08 出会いの場「図書館」

桑原 桃音（社会学研究科博士課程）



資料の 探し方

—ロシア史—

松原 広志

国際文化学部教授

□ロシア史というとなじみが薄くどうも具体的なイメージがわからないか、あるいは食わず嫌いで知りたくもないという人が多いのではないのでしょうか。その原因としては、18世紀末から直接に接しはじめて以来日本側がつねにロシアを警戒していたこと、さらに20世紀にロシア帝国から社会主義をかかげるソ連邦へ、さらにソ連解体後ロシア連邦へという体制転換と、それにともなう歴史の評価の激変などが挙げられるでしょう。他方、20世紀を代表するニュースの一つにかぞえられるソ連解体(1991年)が歴史への関心・疑問を呼びおこすことも事実で、今日は第2次大戦後40年余つづいた冷戦期のステレオ的思考から抜けだし、あらたな視点でロシアの歴史を捉えることができる時代なのです。

ところで歴史学では地球上のどの地域を、いつの時代を研究対象としてとりあげる場合でも、「テーマの設定と資料の深い読み」とが重要であることは言うまでもありません。テーマ設定にいたる手順としては、古い時代から現代まで、あるいは例えば近現代というように時代をしぼった歴史の概説書を読むことと、特定のテーマに的をしぼった論文を読むことをくりかえすのがふつうです。

その反対に論文から概説へ、という場合もありえます。そのような手順によって、自分の関心が歴史の中でどのような意味をもつかを絶えず確認しながら、テーマを仮に設定します。つぎにそのテーマをめぐるこれまで誰がどのような研究(学術論文・学術書)を書いているかを徹底的に調べ、このテーマの何が問題となっているかを理解すること、すなわち研究の歴史(研究史)を知ることが不可欠です。研究史をしっかりとまとめられれば、論文がかなり形をなしてきていると言えるでしょう。

日本においてロシア史の研究は、世界に衝撃を与えたソ連邦でのスターリン批判(1956年2月)に先んじて本格的にスタートしており、他のヨーロッパ諸国史に比べると若い分野だといえます。当時ロシア史の概説書としてほとんど唯一の『ロシア史』(山川出版社の世界各国史シリーズ 1955年)は、まだスターリン時代の歴史の捉え方から完全には抜けだしていませんでした。その後20年ほどの研究成果が1979年に同シリーズの『新版ロシア史』に反映され、ソ連解体後にその増補改訂版が、さらには執筆者の多くが世代交替した最新版が2002年に出ています。概説書としてはまずこれらが必読書です。

なお『ロシア近現代史』(ミネルヴァ書房)のように時代を限定した概説書もあり、関心に応じて読むとよいでしょう。さらに詳しい世界歴史大系シリーズの『ロシア史』全3巻(山川出版社 1995～97年)もあり、1巻ものからさらに踏みこんだ叙述に接することができます。

今日、日本におけるロシア史研究は世界的なレベルの成果を産みだすほどに進み、ロシア・ソ連についての情報も、他の欧米諸国ほどではなくても、得やすくなりました。まず対象について広く知るには、『ロシア・ソ連を知る事典』(平凡社 1989年)が有益です。この事典はソ連解体直後に最小限加筆された増補改訂版が出ていますが、その後のロシアにおける急激な変化を反映する新版が望まれます。より詳しいロシア近現代史についての情報は、全60巻をこえる英語の『ロシア・ソビエト近現代史百科事典 The modern encyclopedia of Russian and Soviet history』(Academic International Press, 1976～.)や、ロシア語の百科事典から得られます。後者については1917年のロシア革命前に刊行が始まったグラナート社、ブロックハウス＝エフロン社の百科事典が20世紀はじめまでのロシアについて



知るうえで利用価値が高く、リプリント版も出ています。ソ連時代には国家的事業として3度にわたり『ソビエト大百科事典』が出版されました。どの版にも出版された時代が反映されていますが、スターリン体制確立以前にスタートした初版(全65巻)の若い巻数の中には、まだ多様な情報がふくまれていると貴重です。第2版(全51巻)はスターリン時代の政治的な画一性が項目の選定面からして露骨にあらわれています。第3版(全30巻)はソ連の相対的な安定期を象徴しているといえます。新生ロシア連邦ではちょうど今年2003年から10年がかりで『ロシア大百科事典』が出版される予定です。なお一般にロシア史に関心が向きにくい理由の一つとして、ラテン文字でなくギリシア文字に近いロシアの文字になじみがないことが挙げられますが、逆に少しでもロシア語を知ればアプローチできる資料がふえて、世界が一挙に広がるといえるでしょう。

卒論でロシア史に取り組む手がありとしては、たとえば『西洋近現代史研究入門』(名古屋大学出版会 1993年初版 1999年増補改訂版)のような入門書が、研究テーマの概観と論文・著書のリストを示しています。なお、『西洋中世史研究入

門』という姉妹編もあることを付け加えておきましょう。19世紀後半以降を対象とする『ソビエト史研究入門』(東京大学出版会 1976年)は当時の研究水準をあらわす詳しい手引書で、今日でも利用価値を保っていますが、その後の歴史と研究の進展を反映した同種の入門書があらたに出版されることが望まれます。英語文献では Robert Auty (ed.), *An Introduction to Russian history* (Cambridge University Press, 1976.) がありますが、これもその後の歴史の動きを反映した改訂版がほしいところです。日本語で書かれた新しい研究については、『ロシア史研究』(ロシア史研究会)、『スラブ研究』(北海道大学スラブ研究センター)などの専門雑誌やホームページ、歴史学全般をあつかう『史学雑誌』(史学研究会)の文献目録と、毎年の5月号(過去1年間の「回顧と展望」号)を丹念に調べることが不可欠の作業です。以上のことから、資料というものも歴史の中で形成されていることが読みとれるでしょう。

ロシア史の研究は、ペレストロイカに続くソ連解体によって大きな転換を経験しており、ソ連の社会主義を神聖視するような歴史学が最終的に根拠を失ったことは言

うまでもありません。しかし歴史学は体制護持の学問として利用される反面、体制批判の役割を果たすこともまた事実であり、ソ連時代とは異なる新しい視点による研究が求められています。それはソ連時代の歴史叙述をすべて否定して、1917年のロシア革命以前はすべてが良かったなどということではありません。なぜソ連時代があったのか、他にどのような可能性があったのか、その可能性がなぜ実現しなかったのか、ソ連時代の経験を知ったうえでどのように歴史をとらえるか、どれほど新しいテーマを設定できるか等々が今後の課題です。その際、資料面では未公刊資料と既刊の資料とを突きあわせ、どのように新しい歴史像を描けるかが問われることとなります。また今日では情報入手のためにインターネットの利用が不可欠ですが(例えば前記スラブ研究センターのホームページとそのリンク集)、どのような情報もその真偽・価値を判定するのは情報を検索する自分自身であり、自分自身の力量がその判定にあらわれるのです。インターネットで得た情報は(書物・雑誌の場合と同様)決して丸呑み・丸写しするべきでないことは言うまでもありません。



図書館の使い方 (人物編)

学術情報センター（図書館）には、人物に関する情報を入手するための資料やデータベースをたくさん揃えています。では、それらのツールをどのように使い分けたら良いのでしょうか？
今回はレポート・論文等を書くうえで、人物に関する事柄についての調べ方を紹介します。

人名事典（辞典）には様々なものがあります。調べたい人物の何について知りたいかによって、適切な参考資料を選ぶことが重要です。自分に必要な情報にあたるためには、「いつの時代の人物か」、「日本人か外国人か」、「現存者か物故者か」、というように時代・地域・分野・性別・生没などから、適切なツールを探しましょう。

まずは

最適なツールを探すために、人物レファレンス事典など（事典の事典）を使うと、調べたい人物情報が、どの人名事典（辞典）・専門事典（辞典）・百科事典に載っているかを調べることができます。

このように、第一段階としては事典の事典にあたっていく方法があります。これは、その人物の情報を幅広く調べるためには効果的です。



次に

調べたい人物の経歴などが調べられたら、さらに人物文献索引などを使って関連文献についても調べておきましょう。

関連文献には①その人物が書いたものと②その人物について書かれたものの2種類があります。

この関連文献から、調べたい人物についてさらに奥深い情報を得ることができます。このような文献の巻末には、年表等が記載されていることもあるので情報整理に役立ちます。

！ 上記の方法に沿って調べるときに、次のポイントもしっかりとおさえておきましょう。

1

個々の参考資料の**凡例**をよく読み、記載の年代・範囲等を理解しましょう。

参考資料の最初のページには、その事典（辞典）の収録範囲や独自の記号案内等が記載されています。

2

複数の参考資料にあたる必要があります。

資料により記載事項に多少の差異があることもあります。特に経歴をあたる際には多くの参考資料にあたってください。



次の一覧表に参考資料の主なものをいくつか挙げましたので、目的に合わせて適切な資料を活用してください。

『人物レファレンス事典』……………**深大瀬**
(日外アソシエーツ)

事典の事典

01

人名事典を
調べるための事典

『外国人物レファレンス事典』……………**深大瀬**
(日外アソシエーツ)

『西洋人物レファレンス事典』……………**深大瀬**
(日外アソシエーツ)

『東洋人物レファレンス事典』……………**深大瀬**
(日外アソシエーツ)

近現代の人物を調べる

人名辞典 『日本近現代人名辞典』……………**深大瀬**
(吉川弘文館)

『現代物故者事典』……………**深大瀬**
(日外アソシエーツ)

主 題 別 人名辞典 『日本文学作品人名辞典』……………**大**
(河出書房)

『日本女性人名辞典』……………**深大瀬**
(日本図書センター)

職 業 別 人名辞典 『現代評論家人名事典』……………**深大瀬**
(日外アソシエーツ)

『日本仏教人名辞典』……………**深大瀬**
(法蔵館)

人名録・人名鑑 『人事興信録』……………**深**
(興信データ)

『日本紳士録』……………**深大瀬**
(ぎょうせい)

『日本著者名・人名典拠録』……………**深大瀬**
(日外アソシエーツ)

歴史上の人物を調べる

人名辞典 『国書人名辞典』……………**深大瀬**
(岩波書店)

主 題 別 人名辞典 『江戸幕臣人名事典』……………**大**
(新人物往来社)

経歴について調べる

02

国内 国外

近現代の人物を調べる

人名辞典 『岩波西洋人名辞典』……………**深大瀬**
(岩波書店)

『岩波=ケンブリッジ世界人名辞典』……………**深大瀬**
(岩波書店)

『新版世界人名辞典 (西洋編)』……………**深大瀬**
(東京堂出版)

主 題 別 人名辞典 『伝記人物事典：世界編』……………**深**
(保育社)

職 業 別 人名辞典 『インド仏教人名辞典』……………**深大**
(法蔵館)

人名録・人名鑑 『現代外国人名録』……………**深大瀬**
(日外アソシエーツ)

歴史上の人物を調べる

人名辞典 『古代ギリシア人名事典』……………**深大**
(原書房)

主 題 別 人名辞典 『三国志人物事典』……………**深大瀬**
(講談社)

『近代日本政治関係人物文献目録』……………**深大**
(紀伊国屋書店)

『人物文献目録：日本人編』……………**深大瀬**
(日外アソシエーツ)

『日本人物文献目録』……………**大瀬**
(平凡社)

関連文献を調べる

03

人物文献索引

『人物文献目録：外国人編』……………**深大瀬**
(日外アソシエーツ)

読み方・原綴りについて調べる

04

読み方辞典・
姓名辞典

『5カ国語世界地名・人名表記辞典』……………**瀬**
(ジャパンタイムズ)

『最新著者名よみかた辞典』……………**深大**
(日外アソシエーツ)

『歴史人名よみかた辞典』……………**深大瀬**
(日外アソシエーツ)

『アルファベットから引く外国人名よみ方辞典』……………**瀬**
(日外アソシエーツ)

『同名異人事典』……………**深大瀬**
(日外アソシエーツ)

その他、人名情報を含む参考資料

05

百科事典
専門事典
団体機関名鑑
便覧
書誌・目録

データベースで調べる

06

人物情報
データベース

『WHO』(日外アソシエーツ)：明治以降、国内で活躍、もしくはマスコミに登場する(した)人物を対象に、経済・社会・政治・研究者・著述・ジャーナリズム・芸術・芸能・スポーツなどのジャンルで現在、約40万人が収録されています。また、国内で活躍、もしくはマスコミに登場する(した)外国人6万人のプロフィール情報を日本語で読むことができます。人名やキーワードからの検索のほか、活動分野や生没年月日、勤務先などからの検索ができ、経歴情報に加え、執筆文献情報や関連文献情報なども収録しています。

※学術情報センターホームページよりアクセスできます。

深：深草図書館所蔵、**大**：大宮図書館所蔵、**瀬**：瀬田図書館所蔵

今回は代表的な参考資料を取りあげています。学術情報センター(図書館)には、他にもさまざまな資料を取り揃えています。自分にあった資料を選択し、活用してください。また、資料の収集の方法についてわからないことがあれば、気軽にそれぞれの図書館カウンターへお尋ねください。



切
手
に
見
る

宗教と世界

「西本願寺第二十三代宗主勝如上人（大谷光照師）収集切手を整理して」

長嶋 和重（元龍谷大学文学部大学院東洋史学専攻）
西谷 功（元龍谷大学文学部大学院仏教学研究）

去る6月9日から21日にかけて、大宮学舎本館展覧室において、『切手に見る宗教と世界』というテーマで切手の展覧会が催されました。開催に合わせて梅雨入りし、期間中雨が続いたにも関わらず、学外から多くの方々が来館され、盛況の内に幕を閉じました。

この展覧会に出品された切手は、西本願寺第23代宗主大谷光照師（前門様）が生前に収集され、昨年の2月に大宮図書館に寄贈されたものです。寄贈された切手は、ダンボール箱で10箱分にもなり、その中に様々な切手が、ファイルや大小の箱に納められていました。その量は膨大なもので、整理の進んだ現在でも、詳細な枚数は把握できていません。

この様な膨大な量の切手の整理は、まず切手を国別で分類することから始まりました。幸い、日本と外国の切手については、寄贈された時点である程度分類されていました。ですが、外国切手について作業を進めるに当たっては、当初かなり難しい作業でした。外国の切手は、当然その切手が発行されている国で用いられる文字で記されています。英語表記されている切手、もしくはローマ字読みによって国名を読み取れる切手は良いのですが、キリル文字やタイ文字、アラビア文字など見慣れな



「切手趣味週間」5円
日本、記念 1948. 11. 29 発行



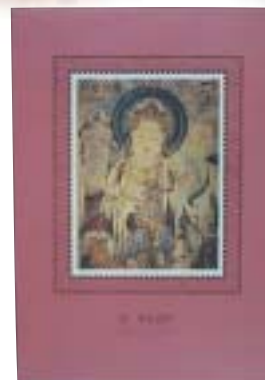
「龍文切手」100文
日本、普通 1871. 4. 20 発行



「郵便週間記念」8円
日本、記念 1949. 11. 1 発行



「龍門石窟」中国、記念 1993. 9. 5 発行



「敦厚シリーズ」
中国、記念 1992. 9. 15 発行

い文字の切手の分類は難解です。これ以外にも、私たちが普段聞きなれない国や、知っている国でも、私たちの知る以外の国名表記をしている国の切手も分類は困難でした。これらの分類作業は、アメリカから発行されている切手カタログ年鑑を基本とし、日本国内で発行されているカタログなども参考にすることで進めることが出来ました。

およそ1年にわたる分類作業の結果、寄贈された切手は、約270ヶ所に及ぶ国や地域にわたって収集されていたことが判明しました。“270ヶ所に及ぶ国や地域”という数と表現は、第2次大戦中の植民地、一国に統合された地域を含んでいることによります。このことは、切手が発行されて160余年間の歴史的な動きを感じさせるものであり、また、切手が歴史上に存在した国・地域の生きた証明と成り得ることを示しています。整理作業については、これまでに外国切手の大半が、国ごとの分類と同時に発行年代の確定がなされ、現在、日本切手の発行年代の確定をしている最中です。

国ごとへの分類、年代の確定といった整理を通じ、前門様のコレクションを見ていくと、一つの特徴が浮かび上がりました。すなわち、宗教に関連する切手を中心に収集がなされているのです。これは、前門様ご自身も言及されており、このような立場で切手を収集されているフィラテリスト（郵趣者）は世界にも数少ないと思われます。



「環境保護シリーズ」
カンボジア、記念 1992. 6. 16 発行

以上の特徴は私たちが、整理を通じて概観したことによる特徴であり、その詳細を明らかにすることは、今後の課題です。特に、切手一枚一枚に描

かれている内容の確定作業を行い、その切手が発行された理由などを理解することが最も重要課題です。切手に描かれたものの芸術性・視覚的特徴も重要ですが、切手発行当時の背景を知ることにより、当時の社会情勢などが理解されると考えられるからです。その点で、切手は近現代史の第一次史料になりうるものでしょう。

このように、小さな紙面に描かれている世界は、さまざまな情報をもつ貴重な文化遺産・歴史史料といえるのではないのでしょうか。私たちは今後、そのような切手の整理・調査を行いながら、その保存に力を尽くさねばならないと考えています。

※将来、公開等ができるように、現在も切手の整理を進めています。



「ガンディーとマザーテレサ」チャド、記念

色々な人と接することが好きな私は、遠い所に住む人や昔の人に出会い、その人を知りたいと欲張って考えてしまう。しかし、遠い所に住んでいる人に出会うのは時間的にも金銭的にも無理で、昔の人にはどうがんばっても出会うことができない。だから、図書館に行き今自分が一番興味のある分野の本を探しに行く。そして、1冊の本を手取ることでその本の著者と出会い、その著者の考えていることを知る。

こうして、1冊、また1冊と手にとって何冊もの本を読んでいくうちに、多くの著者と出会うことになる。1人1人の著者の考えとの出会いを積み重ねることで、社会のある傾向がつかむことができてしまったりする。私はこのような出会いの積み重ねによって、明治以降の恋愛結婚観について調べていこうと図書館で色んな本を手にとって読んでいった。そして、大正時代に婦人解放運動に携わった女性たちの恋愛結婚観を少しばかり知ることができた。平塚らいてうや与謝野晶子や山田わかなどに、本を通して出会いながら、彼女たちの「恋愛」や「結婚」についての考えに耳を傾けた。

その他にも図書館での出会いが、一面しか見えていなかった社会の側面を広げて見せてくれるきっかけにもなる。例えば、私たちが高校生までに学校で学んできた歴史は、ほんの一部でしかないが、滋賀県内の歴史を著した

出会いの場

「図書館」

本を読むことはその本の著者と出会うことである。そして、図書館は大勢の多種多様な著者達に出会う機会を与えてくれる場である。図書館の書架には、ずっと昔に絶版になってしまった本の横に話題の最新刊が並び、有名な学者の本とあまり名の知られていない新鋭の学者の本が背表紙を向け合っている。そう、図書館には古今東西の様々なジャンルの本が、有名無名に関係なく数多く並んでいる。

本だけでも20冊以上あり、しかもほとんどの本が電話帳並みに分厚かったりする。このようにひとことで「歴史」といってもその土地土地でそれぞれの歴史があり、大げさにいうこの世に生まれた一人一人の人間にそれぞれの歴史がある。私たちはそのほんの一部の歴史しか知らず、一握りの歴史上の人物としか出会っていないのである。

図書館は本との出会いの場を設け、様々な知識を得る手助けをする。しかも、図書館で出会う著者たちも多くの本との出会いを経て自らの著作を完成させている。また、多くの本との出会いの機会を持つ人は、同じように実際の出会いを大切にする。民俗学者の折口信夫はひとつの図書館の本を全て読み尽くしたというエピソードを持っている。彼はそれほどたくさんの本を読みながらも、全国をまわり、実際に多くの人と出会っている。本との出会いを経て興味を抱いたことがあれば、本だけでは知り得ない事実を自分の足でつかってつかみに行くことも大切である。文字だけでは語れない事実が同じように世界には広がっているからである。図書館は世界への入り口である。そしてどの入り口を開くかは、パソコンを使って本を検索しながら、または図書館の書架を眺めながら自分で決めていけばいいのである。

(社会学研究科博士課程 桑原 桃音)

「日経テレコン21」講習会のお知らせ

今後、就職活動にむけて、「日経テレコン21」を利用した企業情報の収集方法について、講習会を行います。詳しい日程および会場については各図書館掲示板および学術情報センターホームページでお知らせします。

龍谷大学図書館報

来・ぶらり 第28号



2003年10月発行

編集・発行 龍谷大学学術情報センター
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL. 075-645-7885 (ダイヤルイン)
<http://opac.lib.ryukoku.ac.jp>